



里山で採ってきた山菜をてんぷらにして食す！講師は、自給自足を実践する町民

めざすのは、地域が元気になること

～NPO 法人 なんぶ里山デザイン機構～

コンセプトは「里山デザイン」

NPO 法人なんぶ里山デザイン機構（以下、「デザイン機構」と略）ができたきっかけは、南部町が平成27年3月に「地方創生総合戦略」を策定するにあたり、「なんぶ創生100人委員会」を設置したことから。100人委員会では「農林・商工」「観光」「移住定住」「子育て支援」「まちづくり」の5つの分科会で半年にわたり話し合いが行われました。8月下旬に策定案が町長へ提出されると、住民主体のまちづくり会社をつくってこの案を具現化してほしいと要請があり、直ちに設立準備会ができ、翌年3月にはデザイン機構が創設されました。「私は、100人委員会の会長を仰せつかっていたので、デザイン機構の理事長も引き受けることに」と毎川秀巳まいかわひでみさん。

「里山をデザイン」することをコンセプトに、空き家を活用した移住促進事業や里山の暮らしを学ぶ市民カレッジ「なんぶ里山デザイン大学」（以下、

「デザイン大学」と略）など、南部町での暮らしやすい仕組みづくりに取り組んでいます。

材料は、現地調達で

デザイン大学は、南部町の里地里山を活用した体験重視の講座で、町民に限らずだれでも受講することができます。その内容は、南部町に生息するオオサンショウウオの観察会や梅枝を組み合わせた灯りスタンド作りなど多岐にわたります。他には、草木染めやハチミツ採取などの体験も。草木染めの体験は、市販の染色液を使うのではなく、薪で火をたき植物を煮て染色液から作ります。「普通の講座だと、材料は準備されていますよね。でもうちは、草木染めの植物もかご編みのつるも苔玉づくりの苔も、山に採りに行くところからはじめます。これがうちの売り」と岩崎一美いわさきひとみさん。「近くにフィールドがあるのが南部町らしさ」とも。

また、草木染めの材料として使用するセイタカ

アワダチソウは、駆除対象の外来種。やっかいものの植物を使うことで、自然を見直すきっかけになっています。

南部町は、環境省が指定する「重要里地里山」に町全域が選定されています。この豊かな里地里山の資源を最大限に生かしながら「人」という資源が加わり、さらに輝きを増しています。

講師は、ほとんどが町民！

デザイン大学の講師は、9割が町民です。「生業にされている方ではなく、ご自分の生活の一環として実践されている方に目をつけて」と講師探しのコツを話す岩崎さん。「日々の暮らしの中で普通のことすぎて、ご本人すらもその価値を感じていないことに光をあてる。例えば味噌づくり。いや、これ、実はすごいですよ!というふう」。普段の暮らしを受講者が目をきらきらさせて喜ばれるので、講師にとってもやりがいになっているそうです。

集い・つながり・交流する「場」

平成29年からは、「えん処 米や」の管理運営をデザイン機構が担っています。ここは、法勝寺地区の空き家をリノベーションしてできた場所で、お試し住宅と交流スペースがあります。交流スペースでは、近所の方が団らんしたり、地元野菜や手作り雑貨が並ぶマルシェが開かれたり。厨房もあり、地域住民が企画した料理教室が開かれることも。

さらには、将来飲食店の開業を目指す方が、1日店長になり飲食を提供する「チャレンジカフェ」をデザイン機構が主催。月ごとのメニューをホームページで

公開しています。

交流スペースは町外の方も借りることができ、物販等がともなわなければ無料だそうです。「ちょっとしたおしゃべり会とかでもいいんです。まずは電話でお問い合わせください」と岩崎さん。交流スペースを使って、地域の人がやってみたかったことにチャレンジできたり、米子市など町外の方が、SNSで体験イベントを知ってリピーターで訪れるようになったり、移住を検討する県外の方がお試し住宅を利用したときに岩崎さんが南部町のおもしろい人を紹介したり。

「えん処 米や」は、町内外の人が集い交流する場として、南部町の関係人口づくりにもつながっています。

めざすのは、まちが元気であること

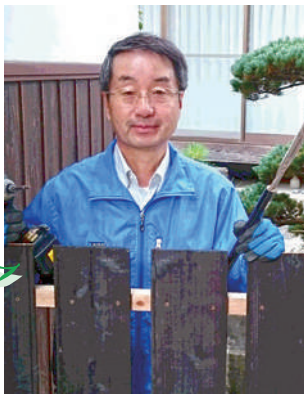
南部町は、行政として「生涯活躍のまちづくり」を進めています。「生涯活躍のまちづくりには、コミュニティをつくるのが大事。箱を建てるだけではコミュニティは生まれません」と話すのは、かつて行政職員の立場でデザイン機構に関わっていた加藤潤さん。地域交流拠点としての「えん処 米や」を行政として費用面でも支えることで、生涯活躍のまちづくりに寄与しています。

「人口が増えることをねらってもなかなか。そうじゃなくて、このまちが元気であればいいなって。住民が元気なのはもちろんだけど、町外の人に関心を持ってもらい、応援していただきながらやっていくことが願い」と毎川さん。「まさに、生涯活躍のまち。まずは自分たちが楽しんで生きがいを感じる事が大事」と南部町の今と未来をみつめます。

お話をうかがったのは、理事長の毎川秀巳さん&理事/デザイン大学担当、えん処 米や管理の岩崎一美さん&事務局長の加藤潤さん

現在進行中！

東京の学生と南部町の青年団で、空き家をハウジングアリアにする取組も始まっています。実は私も若い頃、青年団活動をしていました。



理事長の毎川さんはDIYも得意！



事務局長 加藤さん



理事 岩崎さん

お願い

里山の魅力に目覚めてしまいましたが、私たちと一緒に活動してくれる方、募集中！

デザイン大学のようなすを、ちょっとだけ紹介しま〜す！
だれもが先生になるし、生徒にもなるの「教え合い、学び合う」そんな関係性が素敵です！



気分はまるで養蜂家。完全防護で挑む！「ハチミツ採取体験」



「つるかご作り」は、山でつるを採るところから



野に咲く草花で暮らしを彩る「野花のあいらい」

9・10月に申込ができる講座

焚火のある暮らし講座 ～アウトドア料理を楽しもう～
申込開始 9月5日から
 開催日：11月5日（日）10：00～14：00
 場 所：講師自宅（南部町）
 対 象：小学生親子（定員10組）
 参加費：2,000円（ランチ代、保険代含む）

つるかご作り講座 ～つるの採取から体験～
申込開始 10月2日から
 開催日：12月2日（土）10：00～14：30
 場 所：えん処 米や
 対 象：一般（定員10名）
 参加費：2,000円（ランチ代、保険代含む）

縁
 がつながる
 素敵な空間

お試し住宅・地域交流拠点
えん処 米や



「米や」外観



マルシェ



近所の方と団らん

例えばこんな事に
 利用できます。

- ★ 近所の方と団らん
- ★ リモートワーク
- ★ 職員研修
- ★ ママ友ランチ会
- ★ マルシェ
- ★ 料理教室 など

**交流
 スペース**

- 利用料：無料（事前予約が必要）※ただし、有料イベントの場合は、利用料あり
- 利用時間：8：00～21：00
- 基本設備：電気ケトル、厨房食器類、調理器具、プロジェクター、スクリーン、高齢者用イス、Wi-Fi 完備

所在地 「えん処 米や」西伯郡南部町法勝寺 536

予約・問合せ先

090-9068-8543
 （直通/平日9：00～17：00）

その他、女性・子育て世代に好評の地域の人と仕事をつなぐ「しごとコンビニ」の運営、ふるさと納税の受付や返礼品の手配などの事業も行っています。

問合せ先
 NPO 法人なんぶ里山デザイン機構
 〒683-0227 西伯郡南部町浅井938
 （南部町総合福祉センターいこい荘内）

TEL 0859-21-1595
 講座の申込・問合せは 090-9068-8543
E-mail info@nanbu-satoyama.jp

